

「校内研修プログラム」の活用事例  
～学習の困難さを理解するための校内研修～

【活用するシート】  
Ⅰ－１ 発達障がいの子どもの特性の理解

研修時間  
20分間

主 な 内 容		
○ 発達障がいのある子どもの「困難さ」を疑似体験し、子どもの立場に立って教師の指示の在り方について考える研修		
手 順		
準 備		・「Ⅰ－１ 発達障がいの子どもの特性の理解」のシート
タイム テー ブル	1分	1 研修のねらいの確認 ・疑似体験をとおして、発達障がいのある子どもの心理や教師の指示の在り方について考える。
	1分	2 研修方法の説明 ○ 疑似体験の進め方について ・教師役、子ども役、観察者の3名1グループとなり、疑似体験を行う。 ・子どもの立場から、教師の指示の出し方について協議する。
	5分	3 シート（演習1）を活用した演習 ① 疑似体験 ・3つの役を全ての教員が体験する。
	8分	② グループ協議 ・子どもの立場で教師の指示の出し方について感想や思いを交流する。 ・望ましい教師の指示の出し方として、3点決める。
	3分	③ 全体交流 ・各グループから、教師の指示の出し方を発表し、学校全体として「これだけは」取り組む方法を決める。
	2分	4 まとめ・振り返り
事後の取組		○ 子どもへの指示の出し方について短いスパンで検証する。

ここがポイント！  
子どもの立場に立って考えることが重要です。

ここがポイント！  
学校全体として取り組む方法を決めることが大切です。

研修シート(試案)

Ⅰ－１ 発達障がいの特性の理解

- ◎ ねらい  
発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

1 疑似体験（教師役と子ども役、観察者に役割を分担して実施します）

演習1  
※演習例

① 教師役が次のような長い文章を早口に口頭で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。7時45分にJR「余市」駅に集まってください。  
余市駅発8時18分の列車に乗り、札幌駅着が9時31分、到着後は、地下鉄南北線、東西線乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから円15番動物園線、円山西町2丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。  
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

② このあと、教師役が子ども役に質問をします。

- 余市駅を何時の列車に乗りますか。
- 地下鉄はどこで降りますか。
- 何番線のバスに乗りますか。
- 動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

演習2  
※演習例

準備：パソコンとプロジェクター、4×4のマス目の6か所に異なる絵（60ページ参照）

教師役が「4×4のマス目の6か所に異なる絵」を5秒間程度、スクリーンで見せます。  
スライドを消し、「覚えたものを手元の紙に書きましょう。時間は1分です」と指示します。  
「あと、何秒です」「早く書いてください」など、途中で急がせる声がけをします。  
答え合わせをした後、位置と物が合っている数を確認します。

2 振り返り（発達障がいのある子どもの心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと）

- 子ども役の先生が、途中から説明の内容を理解できていない様子が表情から分かりました。
- 聞いた内容を記憶しながら、話を聞き続けることの難しさが分かりました。